

課題名	難治性低髄液圧症候群（SIH）に対するデジタルサブトラクションミエログラフイー（DSM）による脳脊髄液静脈瘻（CVF）の同定とその臨床的意義：単施設コホート研究
承認番号	2025-10 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 脳神経外科 氏名 三宅茂太
研究期間	（西暦）2025 年 6 月 ～（西暦）2028 年 3 月
研究の意義・目的	低髄液圧症候群（SIH）は、立ち上がったときに頭が痛くなる「起立性頭痛」が特徴の病気です。これまで、この病気の原因は、髄液が硬膜に開いた穴から漏れ出すことと考えられてきました。しかし近年、脳脊髄液静脈瘻（CVF）と呼ばれる、髄液が静脈に漏れ出す新しいタイプの原因が注目されています。 欧米では、脊髄造影（DSM）という特別な検査を使って CVF を見つけ、手術や血管内治療（Onyx という薬剤を使った塞栓術）で治療する例が増えています。しかし、日本やアジアでは、こうした診断や治療の報告はまだほとんどありません。 この研究は、日本人の患者さんにおける CVF の頻度や画像の特徴、そして DSM による検査の有効性について、初期の重要なデータを提供するものです。今後、低髄液圧症候群の診断方法を確立するうえで貴重な情報になると期待されています。
研究の方法 （対象期間含む）	この研究は、難治性の低髄液圧症候群（SIH）で、2024 年 12 月から 2027 年 3 月までの期間に横浜市立みなと赤十字病院で脊髄造影（DSM）を施行された 18 歳以上の方が対象となります。対象となる方の診療録から症状の経過や検査・治療、当院で行った「脊髄造影（DSM）」や治療についての情報を収集し、解析します。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 （匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む）	診療録を基に収集した患者さんの情報には個人情報が含まれますので、患者さんの情報は匿名化し、研究責任者が管理します。 そのうえで、匿名化した患者さんの情報を基に解析を行い、難治性の低髄液圧症候群に対するミエログラフイーや脳脊髄液静脈瘻についての学術的な検討を行います。個人を特定できない形で学会および学術誌での発表を行います。
利用又は提供する 試料・情報の項目	診療録を基に、患者さんの年齢や性別、症状の経過、今までの治療歴、MRI やミエログラフイーの結果を調査します。また、治療を行った場合には治療の方法や治療後の症状の経過を調査します。
試料・情報を 利用する者の範囲	脳神経外科 三宅茂太
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 （当院及び提供先）	〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 脳神経外科 氏名 三宅茂太 TEL:045-628-6100（代表）内線 3808（事務局）／FAX:045-628-6101
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 脳神経外科 氏名 三宅茂太 TEL:045-628-6100（代表）内線 3808（事務局）／FAX:045-628-6101